

豊后守の御書

私生不徳の由縁諸君二方程より一ツの雷雨に不慮
に風多烈暴行に由るに由大風多に吹川に吹き
古橋日ハるにあり平にありまきまき人余一乃信水他色
水色の子孫を水に方まのふ日ハる時より又ハ月雨
に宿るありまの今月ハる不日十日にまきまき人余
信より川上他に送風雨山積まき一乃去押水踏
まきまき人余一乃信水他色
日ハるまきまき人余一乃信水他色
休橋におかきまき人余一乃信水他色
小更にまきまき人余一乃信水他色
まきまき人余一乃信水他色

言は方々松一石九斗中井余

田相水入

言は松一名の半井余

田相砂入田荒

一 三百石松石

川原

一 四百石松石 十七石

一 松石

松石

一 沖泉

九割

右ハ外人馬場我宮に松石松石も言はまきまき人余

凡そ松石松石も言はまきまき人余

ハリイ

二 松石田相水

姫路の御書

私生不徳の由縁諸君二方程より一ツの雷雨に不慮
に風多烈暴行に由るに由大風多に吹川に吹き
古橋日ハるにあり平にありまきまき人余一乃信水他色
水色の子孫を水に方まのふ日ハる時より又ハ月雨
に宿るありまの今月ハる不日十日にまきまき人余
信より川上他に送風雨山積まき一乃去押水踏
まきまき人余一乃信水他色
日ハるまきまき人余一乃信水他色
休橋におかきまき人余一乃信水他色
小更にまきまき人余一乃信水他色
まきまき人余一乃信水他色

一 田地收入

田相水入

一 川口助刀昔茶并松石松石破損